



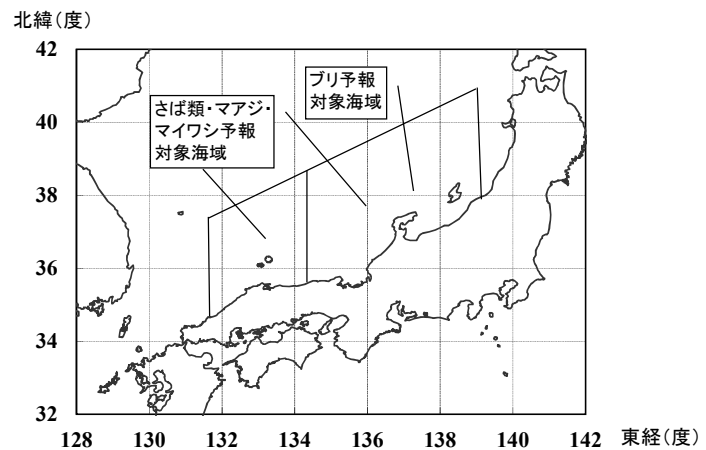
## 平成30年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(平成30年11月～平成31年3月)のポイント

#### 漁況(来遊量)

- (1) さば類(島根県～新潟県)  
前年を上回る
- (2) マアジ(島根県～新潟県)  
前年を下回る
- (3) マイワシ(島根県～新潟県)  
前年並～上回る
- (4) ブリ(兵庫県～新潟県)  
0歳魚は前年を下回る  
2歳以上魚は前年並～上回る



※「前年」は2017(平成29)年11月～2018(平成30)年3月

※予報期間におけるブリの1歳魚は、主漁期から外れ漁獲量が少ないため、予測対象から除外

### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所

担当：業務推進部 加藤、後藤

担当：資源管理部 森、久保田、松倉、古川

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

## 平成30年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2018年11月～2019年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）  
0歳魚（2018年級群）と1歳魚（2017年級群）が主体、来遊量は前年を上回る
2. マアジ（島根県～新潟県）  
0歳魚（2018年級群）と1歳魚（2017年級群）が主体、来遊量は前年を下回る
3. マイワシ（島根県～新潟県）  
1歳（2017年級群）以上魚が主体、来遊量は前年並～上回る
4. ブリ（兵庫県～新潟県）  
0歳魚（2018年級群）：前年を下回る  
2歳以上魚（2016以前年級群）：前年並～上回る

※「前年」は2017年11月～2018年3月

※予報期間におけるブリの1歳魚は、主漁期から外れ漁獲量が少ないため、予測対象から除外

### I 予報の説明

漁況の経過（2018年1月～9月）および今後の見通し

#### 1. さば類（図1、図2）

##### ●2018年1月～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系群の一部である。島根県～新潟県の主要港におけるさば類の漁獲量は、近年では2011年～2012年、2014年～2017年で多く、2010年と2013年で少なかった。2018年1月～9月における漁獲量（44,200トン）は2001年以降で最大で、前年同期（26,900トン）および過去5年同期（2013年～2017年）平均（18,900トン）を上回った。

2018年漁獲動向を海域・漁法別に見ると、全体に占める割合が最も大きい鳥取県および島根県（両県ともまき網）では、主漁期（1月～4月）の漁獲量（30,900トン）は前年同期の1.6倍、過去5年同期平均の2.6倍に、その後の5月～9月の漁獲量（8,800トン）も前年同期の1.9倍、過去5年同期平均の3.5倍に増加した。中部以北（主体は石川県と新潟県）におけるまき網などでは、例年まとまった漁獲のある1月～4月の漁獲量が前年に引き続き極めて少なかったものの、5月～9月の漁況は好調で、1月～9月の漁獲量（3,000トン）は前年同期の2倍、過去5年同期平均の1.4倍であった。兵庫県以北の定置網における月別漁獲動向には例年と大きな変化は無く、1月～9月の漁獲量（1,535トン）は、前年同期の1.2倍、過去5年同期平均の0.6倍であった。

##### ●資源状態と年級群の豊度

「平成30年度 第1回 対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」（西海区水産研究所）によると、マサバ対馬暖流系群の年級群毎の豊度は、2016年級群は2015年級群を下回り、2017年級群は2016年級群を上回るとみられる。また、2018年級群は2017年級群並と考えられる。

##### ●今後の見通しについて

本海域の漁獲量は鳥取県および島根県のまき網の占める割合が大きく、11月～3月には0歳魚と1歳魚が漁獲の主体となる。年級群豊度は0歳魚（2018年級群）が前年並、1歳魚（2017年級群）は前年を上回ると推測され、また9月までの漁況から、日本海西部への来遊割合が高いと考えられるため、来遊量は前年を上回ると予測される。

#### 2. マアジ（図3～図5）

##### ●2018年1月～9月の経過

日本海のマアジは主にまき網と定置網によって漁獲されており、2003年～2017年における島根県～新潟県の主要港における漁獲量は、26,900～67,700トンの範囲で推移した。2017年の漁獲量は最低であった2015年の漁獲量30,400トンを下回り26,900トンであった。2018年1月～9月の漁獲量は18,900トンで、前年同期(24,700トン)ならびに2016年同期(24,400トン)を下回った。

#### ●資源状態と年級群の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系群の一部である。漁獲の動向は同系群の資源状態と密接に関わっており、0歳魚と1歳魚が主に漁獲される。新規加入する0歳魚を主対象として、2003年以降、日本海西部海域にてマアジの新規加入量調査を実施しており、その結果からマアジの加入量指標値(来遊の多寡)を算出している。来遊量の多かった2003年を1としたとき、2018年は0.69(暫定値)で、2017年および2016年に比べ低く、2018年級群の豊度は2017年級群および2016年級群を下回ることが推察された。

#### ●今後の見通しについて

予報期間(11月～3月)における日本海では、例年0歳魚と1歳魚が主体で2歳魚以上も漁獲されている。2018年の新規加入量調査による加入量指数は、前年を下回り、0歳魚(2018年級群)の豊度は1歳魚(2017年級群)を下回ることが予想される。また、1歳魚(2017年級群)の豊度は前年並、2歳魚(2016年級群)の豊度は前年よりも高いと考えられるが、2018年1月～9月の漁獲量は前年同期を下回った。以上のことから、予報期間における0歳魚の豊度は前年を下回り、1歳魚の豊度は前年並と考えられ、来遊量は前年を下回ると予想される。

### 3. マイワシ(図6、図7)

#### ●2018年1月～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は2010年までゆるやかに増加傾向を示していたが、2011年に急増し30,000トンを超えた。以降、極めて漁獲量が少なかった2014年を除き、20,000トン以上の比較的高い水準での漁獲が継続している。2018年の9月までの漁獲量は、鳥取県のまき網で減少、石川県の定置網、まき網と富山県の定置網で増加し、56,800トンとなり、9月までの漁獲量としては2001年以降で最高となった。

#### ●資源状態と年級群の豊度

「平成30年度第1回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」(西海区水産研究所)によると、1歳魚(2017年級群)の豊度は2016年級群を下回り、0歳魚(2018年級群)は2017年級群を下回る。一方、平成30年度の資源評価結果によれば、マイワシ対馬暖流系群の資源量は中位・増加傾向である。

#### ●今後の見通しについて

例年、11月～3月の中で漁獲が多いのは1月以降で、2歳以上魚の産卵親魚を主体に1歳魚も漁獲される。1歳魚の年級群豊度が前年の同年齢の年級群より低いと考えられているものの、資源量および日本海での漁獲量は上昇傾向で、2018年の9月までの対象海域での漁獲量は2001年以降で最高であった。以上の状況から、予報期間における来遊量は2001年以降で最も漁獲が多かった前年並～上回ると予想される。

### 4. ブリ(図8～図10)

#### ●2018年1月～9月の経過

2000年～2010年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は5,000～8,600トンであったが、2011年は12,200トンとなり、2000年以降では最高となった。2012年には7,400トンに減少したが、2014年に再び1万トン以上(11,000トン)に達し、以降、2017年(7,300トン)まで毎年減少を続けた。2018年1月～9月における漁獲量は3,600トンで、前年同期(4,400トン)および過去5年(2013年～2017年)平均(6,300トン)を下回った。

2018年の年齢別の漁況経過をみると、0歳魚の漁獲量(7月～9月)は700トンで、前年同期(1,000トン)と過去5年平均(1,000トン)を下回った。1歳魚の漁獲量(4月～9月)は800トンで、前年同期(1,400トン)および過去5年平均(3,000トン)を下回った。2歳以上魚の漁獲量(4月～9月)は1,700トンで、前年同期(1,400トン)と過去5年平均(1,400トン)を上回った。

#### ●資源状態と年級群の豊度および今後の見通しについて

2018年級群である7月～9月の0歳魚の漁獲量は前年を下回ったことから、11月～3月の0歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。

1歳魚(2017年級群)の予報対象海域における主漁期は4月～8月であり、予報期間中の漁獲量の過去5年平均は200トン(範囲は100～300トン)であるため、予測対象から除外した。

2歳以上魚(2016以前年級群)の4月～9月の漁獲量は前年比21%増で上回ったため、11月～3月の2歳以上魚の来遊量は前年並～上回ると予測される。

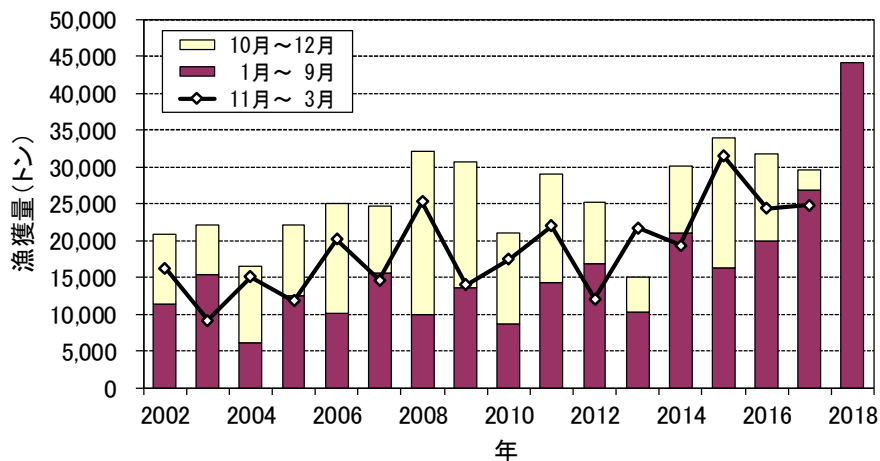


図1 島根県～新潟県におけるさば類の漁獲量の推移（2018年は9月まで）  
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

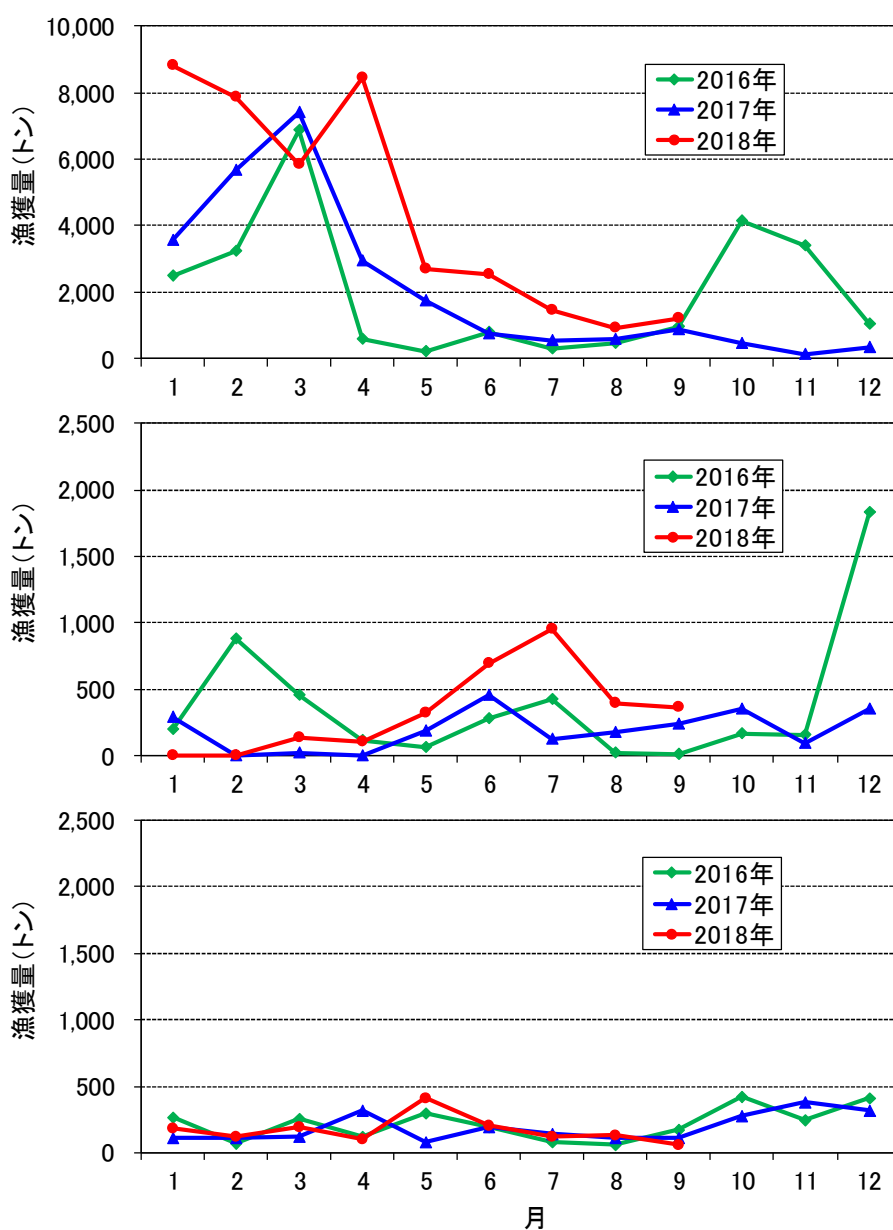


図2 2016年～2018年におけるさば類の月別漁獲量の推移（2018年は9月まで）  
上：島根県～鳥取県（まき網）  
中：兵庫県～新潟県（まき網ほか：定置網以外を集計）  
下：兵庫県～新潟県（定置網）

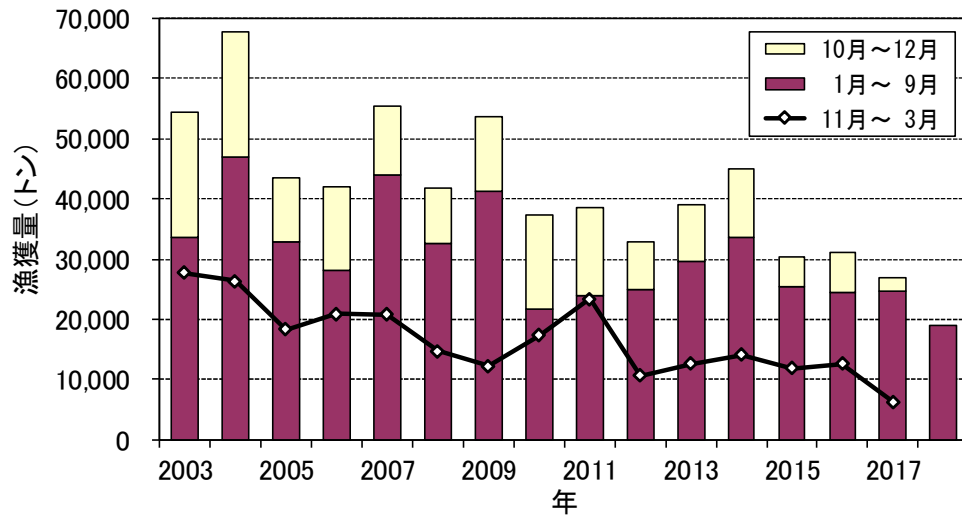


図3 島根県～新潟県におけるマアジの漁獲量の推移（2018年は9月まで）  
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

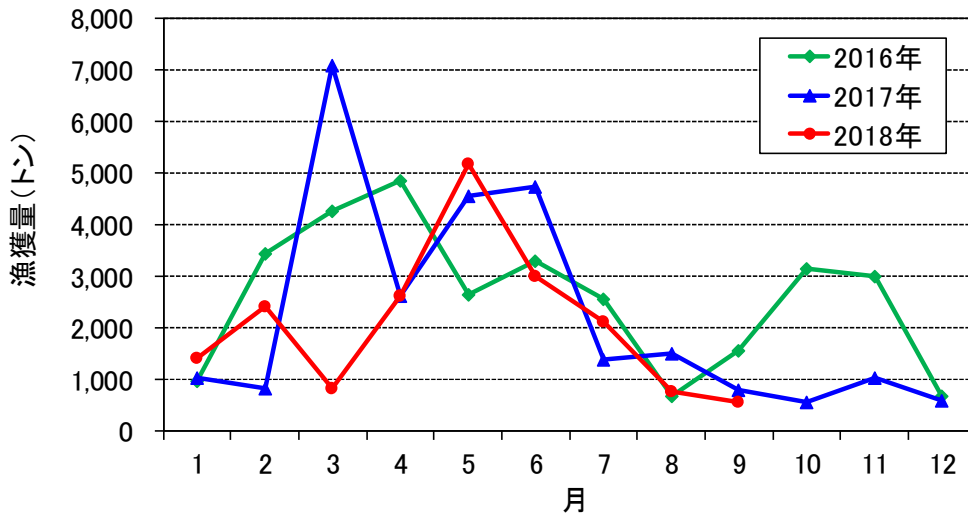


図4 2016年～2018年の島根県～新潟県におけるマアジの月別漁獲量の推移（2018年は9月まで）

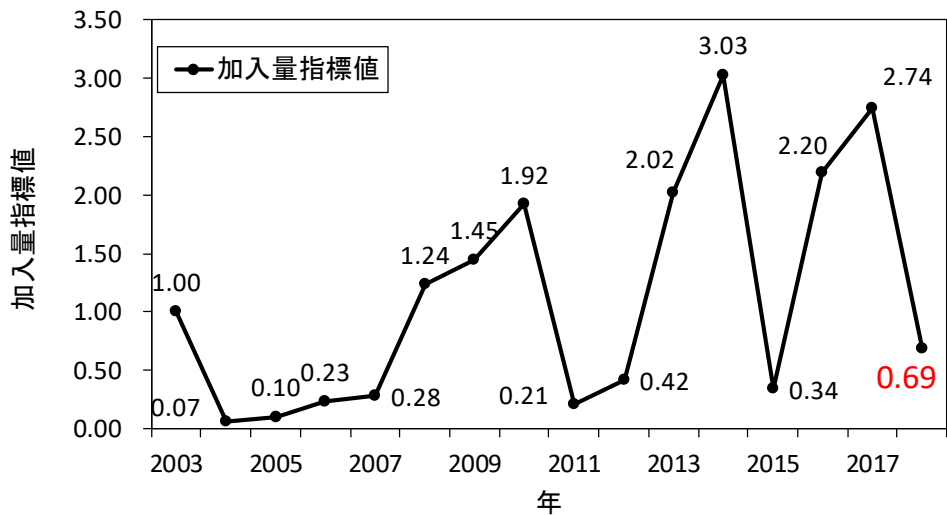


図5 新規加入量調査によるマアジ加入量指標値の推移（2003年を1とした）

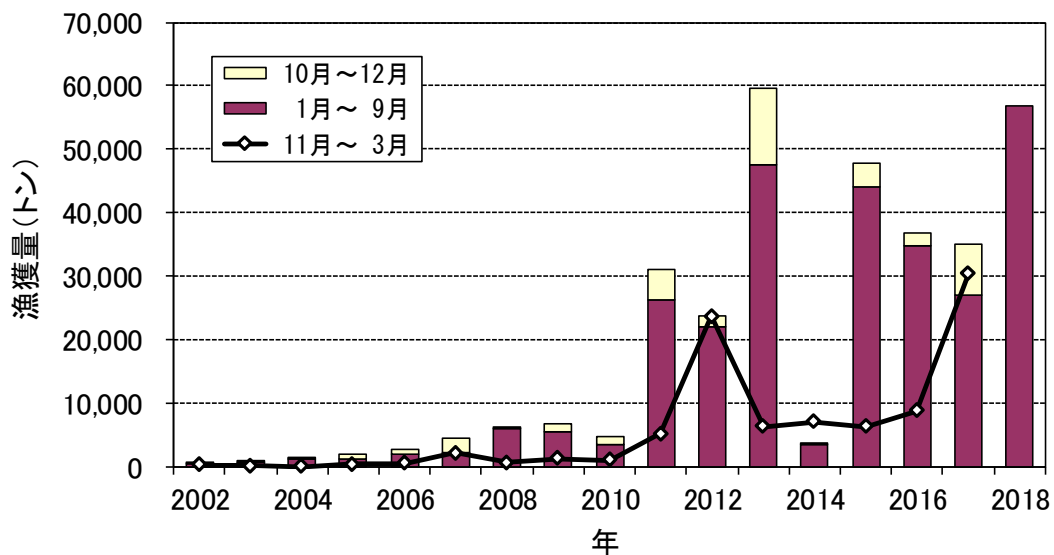


図6 島根県～新潟県におけるマイワシの漁獲量の推移（2018年は9月まで）  
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

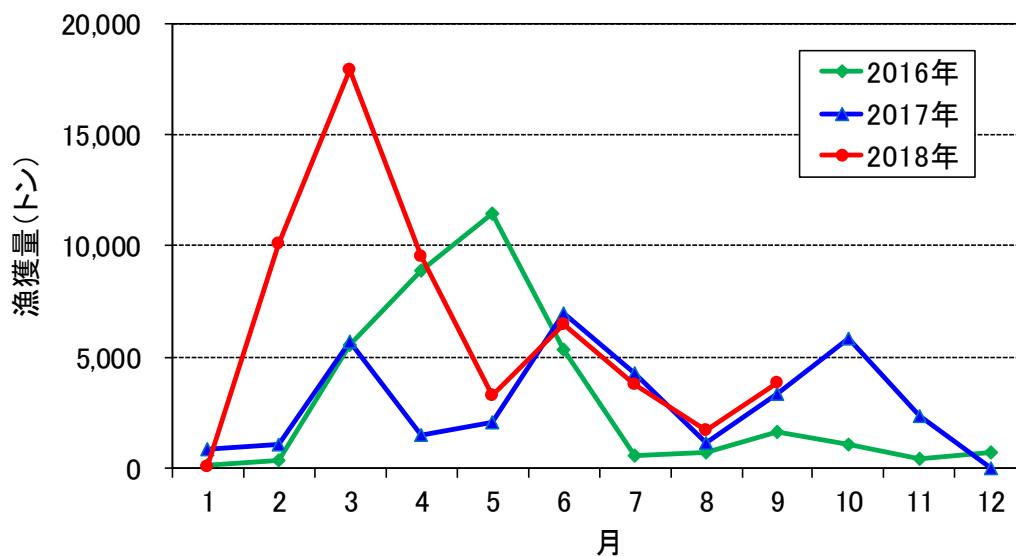


図7 2016年～2018年の島根県～新潟県におけるマイワシの月別漁獲量の推移  
(2018年は9月まで)

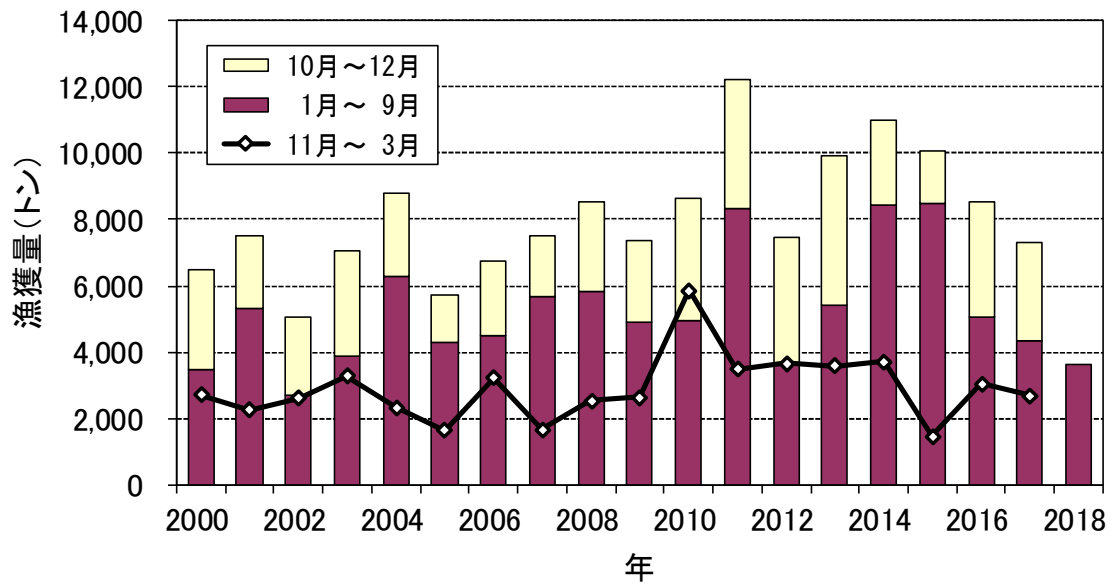


図8 兵庫県～新潟県の主要港におけるブリの定置網漁獲量の推移（2018年は9月まで）  
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

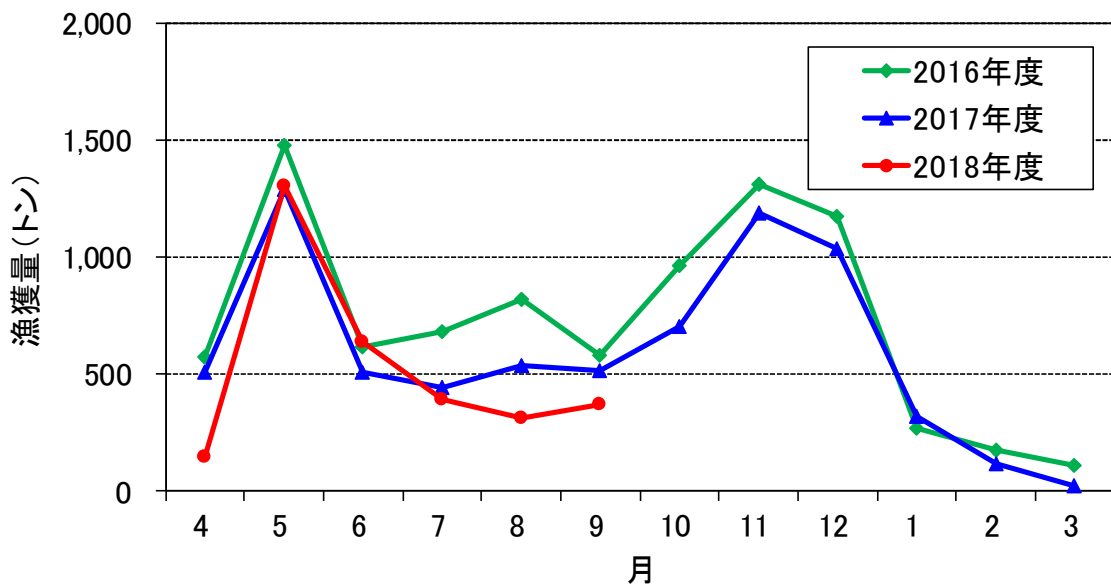


図9 2016年度～2018年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移  
(2018年度は9月まで)

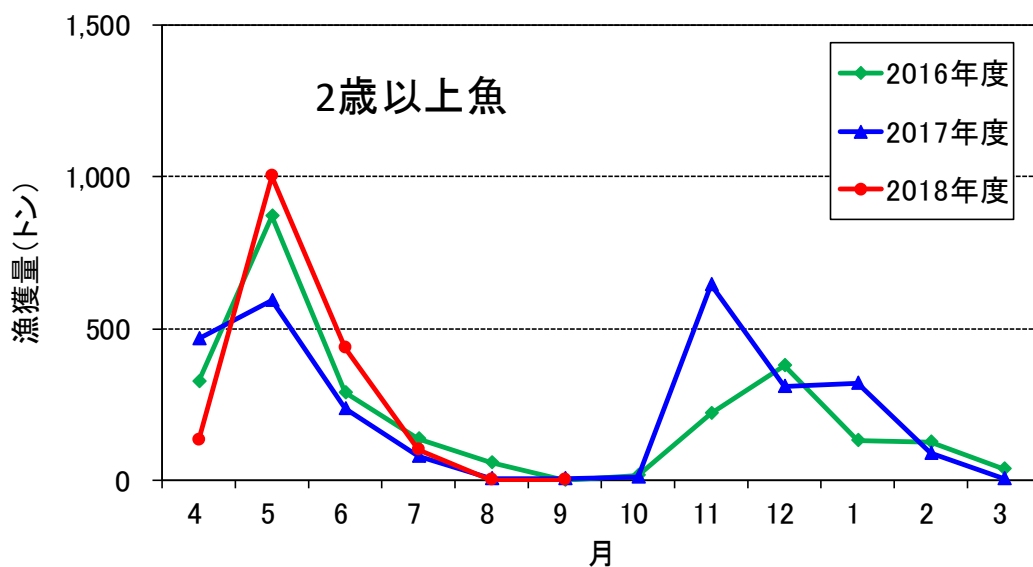
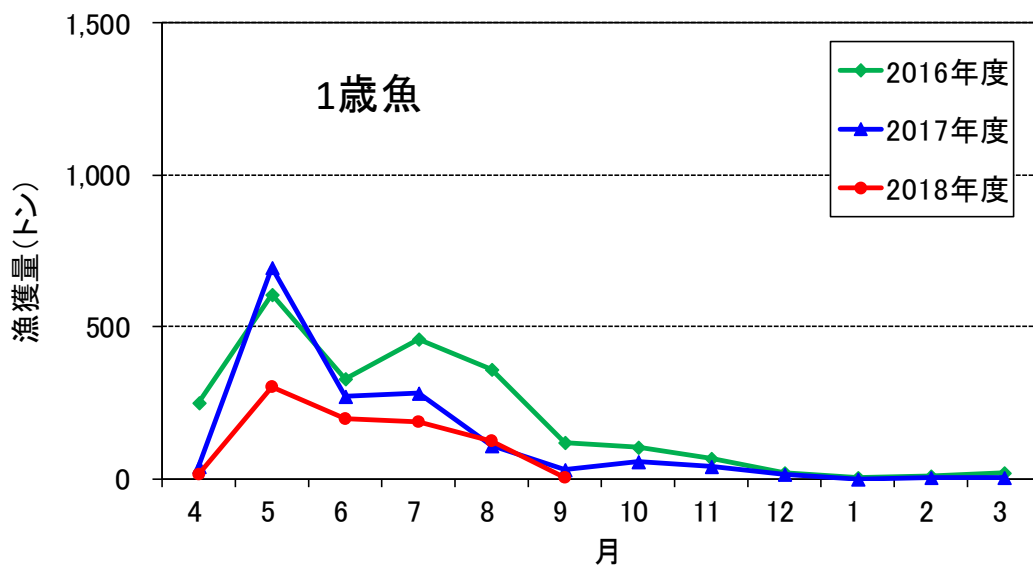
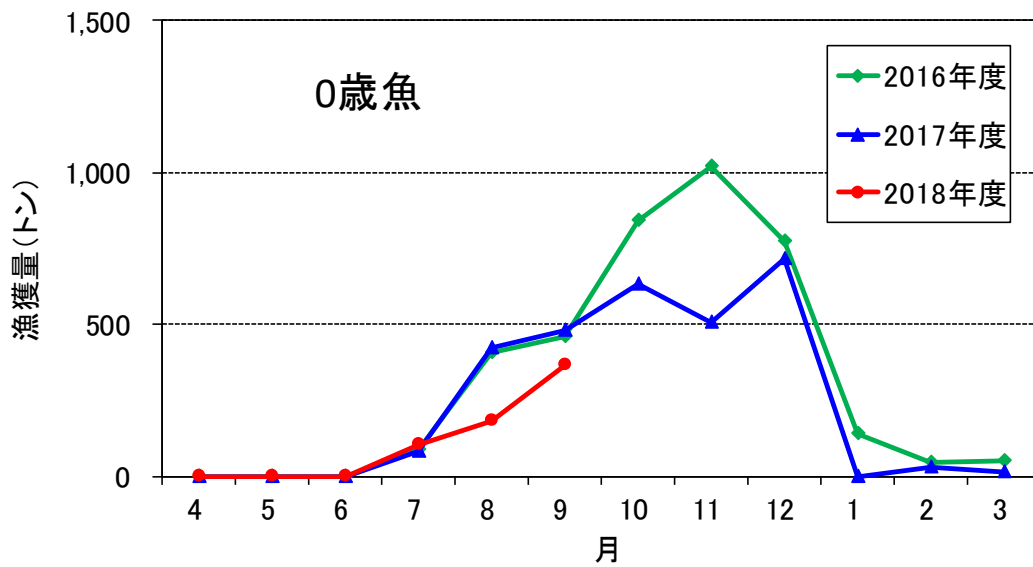


図10 2016年度～2018年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移 (2018年度は9月まで)



## 参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 西海区水産研究所
石川県水産総合センター	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構
福井県水産試験場	日本海区水産研究所
京都府農林水産技術センター 海洋センター	